

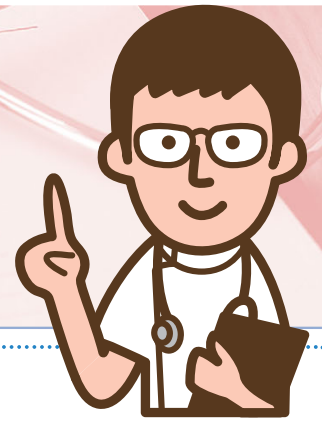
# 大腸がんは「検診」で 早期発見・早期治療を

## 1

### 大腸がんとは

大腸がんは、大腸（結腸・直腸・肛門）に発生するがんで、ポリープががん化して発生するものと直接発生するものがあります。大腸の粘膜に発生したがんは大腸の壁に侵入し、腹腔内に散らばったり、リンパ液や血液の流れに乗ってリンパ節や臓器に移転したりします。

がんが原因で死亡する方の内、大腸がんでの死亡数は男性で第3位、女性で第1位となっています。 ※2017年現在



## 2

### 症状

早期の段階ではほとんど自覚症状は見られず、進行するにつれて症状が始めます。血便や下血、下痢や便秘を繰り返したり、便が細い・便が残る感じがするなど症状が現れた場合は、消化器科・胃腸科・肛門科などを受診し、早期発見につなげてください。

## がん検診のお知らせ



## 3

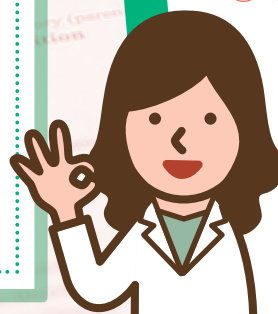
### 予防と「検診」で 早期発見・早期治療を

大腸がんの発生は「生活習慣」とかかわりがあるとされ、赤肉（牛、豚、羊）や加工肉の摂取・飲酒・喫煙をすることで発生する危険性が高まるといわれています。予防には右記の他に「食物繊維」を多く含む食品を摂取することが、効果的であることが分かっています。

大腸がんは早期発見・早期治療を行うことで、死亡リスクを下げるすることができます。40歳以上の方は年一回、一部自己負担で検診を受けることができます。検診は問診と便検査（2回）です。検査の結果「要精査」となった場合は病院の受診をおすすめします。がんは1回でかならず見つかるとは限りません。毎年定期的な受診することで発見する可能性が高くなります。

## 効果的ながん予防

- ① 禁煙
- ② 節度ある飲酒
- ③ バランスの良い食事
- ④ 適度な運動
- ⑤ 適正な体型維持



北医療生協では、検診とは別に大腸がんの自己チェックを行うことをお勧めしています。  
ぜひ年1回の組合員健診と合わせてご利用ください。